



自分たちの手で植え、収穫した稲をはせがけする宮守小5年生

旧宮守村棚田で米づくり体験～稲刈り～ 10月4日
宮小5年生が昔ながらの米づくり

農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に認定されている旧宮守村棚田で、宮守小(菊池国子校長、全校児童82人)の5年生15人が稲刈りをしました。鎌で刈った稲をわらで束ね、はせがけに挑戦。宮守川上流生産組合組合員の熟練の技を手本に、元気いっぱい汗を流しました。菊池翠珠さんは、「当たり前前に食べていたお米は、たくさんの工程の中で大切に作られているのだと感じた」と充実した表情で語りました。



遠野郷農村青年クラブのミニトマトすくいを楽しむ来場者

第45回遠野市産業まつり 10月8・9日
4年ぶり産業まつり笑顔広がる

産業まつり(わらすっこまつりや食育まつりなど同時開催)は蔵の道ひろばと市民センターで開かれました。市内外37の企業・団体が特色を生かした企画を出展。14,000人が来場し特産品販売や木工体験、ステージイベントなどを楽しみました。阿部敏さん(遠野町)は、「遊んで食べて、子どもたちが楽しそうよかった。準備・運営の皆さんにありがとうと伝えたい」と感謝を込めました。



新設された町対抗部門で優勝した宮守町チームのたすきリレー

遠野市民駅伝 10月9日
友人仲間地域でたすきリレー

同駅伝は市内一周継走大会に代わる町対抗部門を新設し遠野運動公園特設周回コースで開かれました。小学生の部(1kmを5周)と一般の部(2.5kmを10周)に計22チーム138人が出場。職場や地域などでチームを組み、たすきをつなぎました。町対抗で優勝した宮守町チームの監督・阿部隆浩さん(達磨部)は、「応援する人も選手全員を見れる。今後の発展に期待が持てる大会だった」と笑顔を見せました。



感謝状を受け取る澤田さん(左)

救命活動に伴う遠野市消防表彰感謝状 NEWS
澤田英器さん(宮守町)に感謝状

自宅脇の側溝に4日間挟まっていた男性を救助したとして、澤田さんに市消防本部の千田一志消防長から感謝状が贈られました。澤田さんは8月3日、車検で預かった車の確認のため電話するもつながらず、翌日に男性宅を訪問。「助けて」という声を頼りに発見・救出し消防へ通報しました。澤田さんは、「自分のできる範囲のことをやったまで。無事に助けることができよかった」と振り返りました。

9月23～26日 日本スポーツマスターズ2022
白熱したサッカー競技、遠野開催

35歳以上を対象にした同大会のサッカー競技が遠野運動公園や遠野市国体記念公園市民サッカー場などを会場に開かれました。全国から16チームが参加。開催地代表として本市の遠野S.C.が出場し、全国レベルのチームを相手に健闘しました。キャプテンの山崎智さんは、「初戦を勝利で飾ることができたのが思い出。次回参加できる機会があればまた頑張りたい」と試合を振り返りました。



1勝2敗で予選敗退するも、地力を見せた遠野S.C.(緑)

10月1日 第36回遠野市少年消防クラブ防火野球大会
投げて打って守って、火の用心!

同大会は、子どもたちの健全な成長と火災予防などを目的に遠野運動公園で開かれました。市内5チームが出場。攻守に全力で白球を追い、熱戦を繰り広げました。決勝は綾織と小友ベアーズ両野球スポーツ少年団が対戦。3大会連続の顔合わせを綾織スポ少が制し2連覇を飾りました。多田渉翔くん(綾織小6年)は、「頑張って練習し優勝できてうれしい。火遊びはしない。大人は火の消し忘れに気を付けて」と笑みを広げました。



決勝で無失点完封勝利を挙げた綾織スポ少の菊池珠羽君

10月2日 2022躍進みやもり祭
秋空のもと家族連れで楽しむ

躍進みやもり祭は宮守総合支所前駐車場で行われ、約800人が来場。多くの家族連れが「ステージイベント」「福祉バザー」「豪華景品が当たる抽選会」などの企画を楽しみました。JAふれあい祭も同時開催。県産和牛ステーキ肉を当てた多田幸生くん(5歳、宮守町)は、「当たったときはとてもびっくりした。帰ったら食べるのが楽しみ」と声を弾ませました。



福祉バザーの商品を選ぶ来場者

10月3日 本市初・地域活性化起業人着任
遠野の魅力アップ担う新戦力

本市の地域活性化のため、合同会社DMM.comから嶋田督さんが着任しました。来年3月末までの間、市産業企画課で観光資源の掘り起こしやプロモーション強化の活動に取り組みます。市長室を訪れた嶋田さんは、「遠野に眠っている資源はまだある。その魅力を発信していきたい」と抱負を語りました。地域活性化起業人は、首都圏の会社で勤務する人材を地方の活性化のために登用できる制度で、本市初の活用となります。



グータッチを交わす嶋田さん(左)と多田市長